

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所フレンドロコペリ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日 ～ 令和8年2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33 (回答者数)	26
○従業者評価実施期間	令和8年1月23日 ～ 令和8年1月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な検査やチェックを実施し、一人一人の課題をこまめに把握していること	○定期的なチェック・検査の実施（WISC-V検査。旭出式社会生活適応スキルチェック等）	○チェック・検査結果からのアセスメントを職員全員で実施し、課題に合った接し方や声のかけ方を共通理解として持つておく。
2	ご家庭や学校での困り感に対し、すぐに対応できるように送迎の会話の場での情報収集を行っている。また、メッセージアプリを活用して、些細なことでも教えていただけるようにしている。	○表情カードを使って、今の気持ちや学校での気持ちを表現し、話をする機会を設けている。 ○学校などでトラブルがあった時、すぐに振り返りが出来るようにしている。	○意識的に雑談をすることで、気持ちの表現の場を作っていく。
3	土曜日や長期休みなどに、調理やお買い物など、実践的な活動を行うことで、生活スキルを身に着ける機会を設けている。	○1日利用の際には、出来るだけお出かけや調理、お買い物など、日常生活に役立つスキルを実践的に身に着ける活動を取り入れている。	○平日の短い時間でも、公共の場での過ごし方など対社会的一般常識を知ることが出来るような活動を実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士で交流する機会が少ない。	○感染症対策によって、交流を自粛していた。	○感染症が少ない時期に計画する。 ○子供の利用曜日にイベントを開催することで、保護者の方の交流や療育見学の場を作る予定。
2	お散歩に出て地域の人と偶然交流するといったことはあるが、意識的な場を作った地域交流があまりできていない。	○感染症対策によって、交流を自粛していた。 ○外部へペアレントトレーニングなどのイベントを呼びかけていたが、なかなか人数が集まらなかった。	○感染症が少ない時期に計画する。 ○外部の方が参加しやすいようなイベントを企画し、その中にペアレントトレーニングを取り入れていく。
3	トイレ等の設備について、大人数で利用することがある。	○設備は基準を満たしているが、休み時間などでキャパオーバーになることがある。 ○一気に利用しようとするのが課題。	○早めに声掛けをしたり、子供たちが意識して自分で行動できるように環境を整えていく必要がある。